

加藤榮一先生の定年退職をお祝いして

マツザキ, タダシ / 松崎, 義 / MATSUZAKI, Tadashi

(出版者 / Publisher)

法政大学現代福祉学部現代福祉研究編集委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The bulletin of the Faculty of Social Policy and Administration :
reviewing research and practice for human and social well-being / 現代福祉研究

(巻 / Volume)

3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

1

(発行年 / Year)

2003-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00015416>

加藤榮一先生の定年退職をお祝いして

現代福祉学部長 松 崎 義

加藤榮一先生は、2003年3月、法政大学現代福祉学部を定年退職されることになりました。短い期間でしたが学部と大学院の創設、その教育と研究とを支えて戴きましたことに対しまして、感謝申し上げます。

現代社会・経済の変容を認識しつつ、“Well-Being”を実現するために、新しい福祉学を創造することを目指して、2000年4月に現代福祉学部が、2002年4月に大学院・人間社会研究科が開設されました。このような性格の学部・大学院の設立は本学では初めての経験であり、臨床領域からミクロ・マクロの政策領域におよぶ広範な分野の第一線の研究者を本学内外からお招きすることにより、初めて創設可能となりました。加藤先生には、福祉学の社会科学的領域の理論的土台を担って戴くべくご就任戴いたこととなります。

1932年に生を受けられた先生は、東京大学経済学部・同大学院をご卒業後、主に東京大学社会科学研究所教授として、経済学、就中、財政学・ドイツ経済研究を専門とされ、研究に邁進してこられました。その研究の核心は、福祉国家論を内包する現代資本主義研究であり、大著『ワイマル体制の経済構造』を嚆矢とする重厚な福祉国家研究の成果を次々と世に問われてきました。斯界の第一人者であることは言を俟たないところです。

先生には、本学部では「財政学」、「福祉国家論」、「演習」を、大学院では「福祉国家研究特論」をご担当戴きました。財政学の講義要綱に記された、「小さな政府」論の横行とは逆の巨大な政府の存在という実態を考えると「財政学のバックグラウンドなしに社会保障や福祉を語るのは空理空論に陥りやすい」、福祉国家論の講義要綱における「私たちが今生きている社会の歴史的位を考えてほしい」という二つのメッセージは、単に学生に向けたそれに止まらず、歴史認識が希薄化し、大枠の構造との関連を忘れ勝ちな研究領域の細分化、ともすれば理念に傾きがちな日本の福祉政策研究の状況に対する警鐘として受け止めるべきかと思えます。社会科学という言葉がかつての響きを失いつつある現在、時代と後学とが心すべきメッセージでもあると考えます。

それだけに、学部・大学院の創設の事業に追われている事情があるとは言え、先生の理論体系と研究の蓄積とを、本学部スタッフ間の研究交流に十分に生かし得なかったことは、残念であります。今後とも、交流とご指導をお願いしつつ、ご健勝と研究の一層の展開をお祈りし、送別のご挨拶と致します。

2003年1月13日